

中国語学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

外国語学部中国語学科は、中国語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

中国語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（中国語学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 中国語で自分の専門分野に関する内容について議論することができる程度の運用能力を修得している。
- (2) 自ら課題を設定し、調査分析した結果を文章や口頭でわかりやすく論理的に表現できる 知識と技能を修得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表することができる。
- (2) I T スキルに関する知識を駆使して、必要な情報を収集・分析し、結論を導き出すことができる。
- (3) 英語圏における文化、社会等についての問題意識を持ち、それらについて自分の意見を平易な英語で表現できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等に関する知識および中国語の表現力を修得した後も研鑽を続け、社会の変化に適応し、社会に貢献できる人材足り得る能力を有する。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 中国を中心とする華語圏の人々との交流や折衝において、多様な文化を理解し尊重する姿勢、物事を円滑に進める能力を発揮することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

中国語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 1、2 年次にはクラス担任制による責任を持った指導を行う。2 年次より「中国語・社会（ビジネス）コース」と「中国語・言語（通訳翻訳）コース」に分かれ、前者のコースにおいては現代の中国を理解し中国語をビジネスに活用できる能力を修得させ、後者のコースでは中国語を深く掘り下げて学ぶことで、通訳翻訳のできる能力を修得させる。
- (2) いずれのコースにおいても、中国語ネイティブスピーカーの指導により、中国語の読む・書く・聞く・話す能力を確実に修得させる。それと同時に日中関係を視野に入れながら、日中経済動向、日中貿易関係および中国と関係の深い華語圏の社会文化に関する知識を修得させる。

- (3) 外国語科目としては 1 年次の英語を必修科目とし、2 年次の英語は選択科目とする。全学共通科目のうち 12 単位を卒業に必要な選択必修科目とする。
- (4) 問題解決に必要な情報を収集・分析し発表することのできる IT スキルを修得させる。

2. 教育方法

- (1) 3、4 年次には 1、2 年次に修得した基礎の上に、中国語の文献を深く読み込み、理解し、自分の考えをまとめた後は、それを中国語で表現できる能力を高めるための科目群を置く。
- (2) 3、4 年次には、さらにゼミ教員による卒業研究指導により、情報を的確に収集し、集めた情報を正確に分析し、それをまとめて報告・討論できる能力と技術を修得させる。
- (3) 中国・台湾における短期留学（研修）や長期留学に参加することにより、中国語の実践的な語学力を向上させ、異文化理解に関する知識を修得させる。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、中国語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価と比較して、その評価に届かない学生については、教員による個人面談を実施する。
- (3) ゼミを選択した学生については、4 年間の総括的な学修成果として、ゼミ教員による卒業論文あるいはそれに代わるものの評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

中国語学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校卒業レベルの十分な学力を有している。
- (2) 言語を学ぶ上での基礎的な学習スキルを身に付けている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 中国の言語、文化、娯楽、歴史、政治、経済について興味があり、そうした事柄についてより深く学ぶことができる。
- (2) 単なる知識の修得にとどまらず、その知識にもとづいてより深く考え、自分の考えをまとめ、発表することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 将来は中国語を使う職業につきたいと考えている。
- (2) すでに一定の中国語能力を有しているが、その中国語の運用能力をさらに向上させたいと考えている。

中国語学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験			
	英語民間試験スコア	●	●	
一般選抜 (英語民間試験活用総合評価型)	英語民間試験スコア	●		
	課題		●	●
	調査書 等	●		
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書 等	●		
	中国語	●	●	
	課題		●	●
	小論文		●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●